

証券市場とサステナブルファイナンス

現在、「持続可能な社会の実現」が世界の共通課題となっている。持続可能な社会の実現には、気候変動や環境汚染などの地球環境だけでなく、経済格差の拡大や社会の分断などの社会問題、また企業活動の根幹をなす企業統治などが関係してくる。これらはすべて経済活動に起因するため、「経済」と「持続可能性」のつながりを見つめ直す必要があると言える。持続可能な社会を実現するため、長期的な資金のやり取りである「サステナブルファイナンス」が時代の潮流となっており、経済と持続可能性をつなぐ架け橋ともいえる。これらの背景を踏まえ、本テーマでは持続可能な社会実現のために企業と機関投資家がどのように経済活動に取り組んでいくべきかについて議論をしてもらいたい。なお、本主旨文におけるサステナビリティとは

【論点 1】 証券市場とサステナブルファイナンス

SDGs や ESG への関心の高まりを背景に、持続可能性に係る要素を資金使途や取引条件に組み込んだサステナブルファイナンスの市場規模が世界的に拡大している。サステナブルファイナンスを負債型・株式型に限定し、近年の証券市場において見られる各形態の傾向について比較・検討してもらいたい。

【論点 2】 持続可能な社会実現と証券市場プレイヤー

「資金の取り手としての企業」、「資金の出し手としての機関投資家」双方が互いに関わり合う中で、それぞれに求められる役割について検討してほしい。その際、企業・機関投資家が検討した役割をこなす際に生じる諸課題を挙げてほしい。また、証券市場におけるゲートキーパーの役割についても言及してもらいたい。

【論点 3】 サステナブルファイナンスの今後の展望

論点 1 で挙げたように持続可能な社会の実現のための株式型・負債型のサステナブルファイナンスには、今後それぞれにどのような役割が求められるかを検討してほしい。

【論点 4】 持続可能な社会実現のための方策

持続可能な社会の実現に向け、これまでの論点で出てきた諸課題について企業・機関投資家・ゲートキーパーがそれぞれどのように寄与していくべきか検討してほしい。

【留意点 1】 サステナビリティ

論点 1・2 に関し、「サステナビリティ」は ESG 要素を含むため非常に多義である。そこで、企業・機関投資家それぞれが重要視すべき ESG 要素を挙げてもらいたい。また、そ

れをもとに独自の「持続可能な社会の実現」を定義してもらいたい。

【留意点 2】 スチュワードシップコード・コーポレートガバナンスコード

論点 2 に関し、資金の送り手である機関投資家は、資金の取り手である企業の中長期的価値向上に向け、エンゲージメントによりアプローチする。この背景を踏まえたうえで、両コードが企業・機関投資家にどのような影響を与えているかについて検討してもらいたい。

【留意点 3】 非財務情報

持続可能性に注目が集まる中で企業・機関投資家双方が、財務情報のみならず、非財務情報を重視し始めている。その非財務情報の開示の在り方、質に関して検討してもらいたい。その際、企業・機関投資家双方の立場からの諸課題についても検討してもらいたい。

※補足説明

- ・本テーマにおけるサステナブルファイナンスは、負債型・株式型に限定する。
- ・本テーマでは、「企業」、「機関投資家」、「ゲートキーパー」の証券市場プレイヤー 3 者からの議論を軸とする。
- ・企業・機関投資家の範囲を「日本の上場企業・機関投資家」に限定する。但し世界の潮流を捉える際はその限りではない。